京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
京都(075)811(学内142甲)
振替・京都3909
(1部15円)

■週間日程■

三十一日(月)生物関係講演　午後「時空間構造」について　一日午後　医学部講堂　ウィ研講演会　午後　夜会　生協講堂食堂　京大ベトナム問題教室・大学教室　第1教室　午後四時より五時　法経第1教室　ベトナム問題について　主催民青同

一日(月)　ベトナム問題　原爆被災者の会の会員の会員　この6・4集会は、5・28集会の決定によって新たに出されたもので、関西学院一万の参加者を求めるとの提案が出された。

この集会の参加者は、ベトナム問題委員会、核兵器禁止平和委員会、原水協、学生部、学生課、学生部、学生課、学生部、学生課

マルコム・Xの最後の洞察(終)

エヴリン・セル
訳・魚谷恭

前の二回に述べてきたマルコム・Xの思想は、その後期の見解の中に、何を求め続けるのであったか、しかし、六一年にさかのぼるアリーム・ナチ運動の発展の圧力、そして、アフリカ旅行での経験、そして、帝国主義（アメリカを先頭とし）と後進国との対決の激化による圧力によって、徐々に、黒人解放・トリッキ的なものに接近する。この過程が、この「並」において、エリジン・セルにより描きだされる。

この文の第一部から知られたように、第二のマルコムは急に出現するのである。その条件は、現在彼にのし掛かるのである。ヴィートナム戦争の拡大、それは、現在の「ジャンプ」を生じたことを、示唆しているのである。また、アフリカ旅行の経験が、現在の運動の中に急に出現するであろう